

経営比較分析表（平成28年度決算）

鳥取県 智頭町

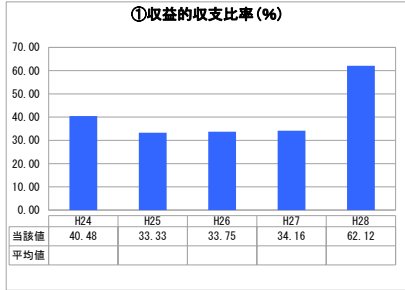
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	45.01	100.00	4,320

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
7,398	224.70	32.92
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
3,313	5.20	637.12

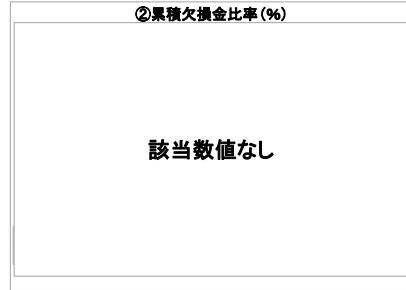
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

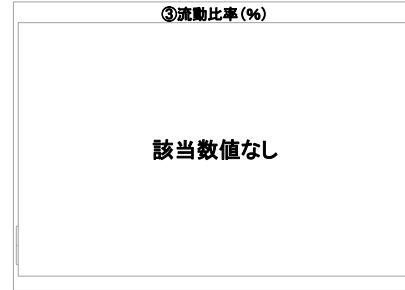
1. 経営の健全性・効率性



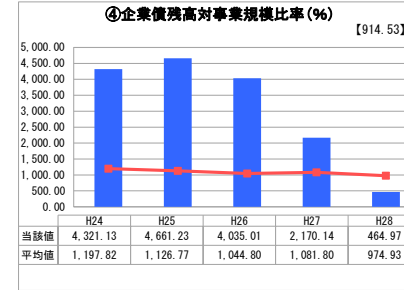
「単年度の収支」



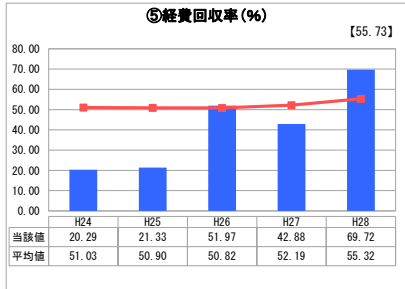
「累積欠損」



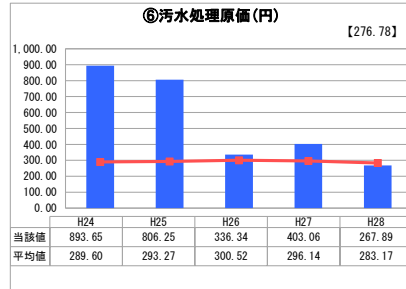
「支払能力」



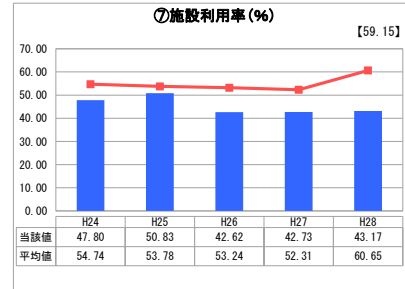
「債務残高」



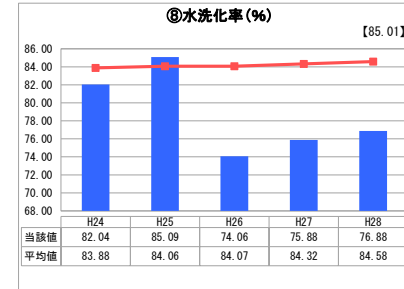
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

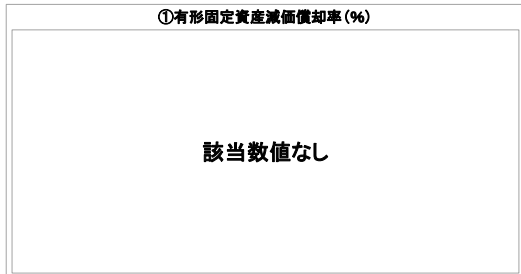


「施設の効率性」

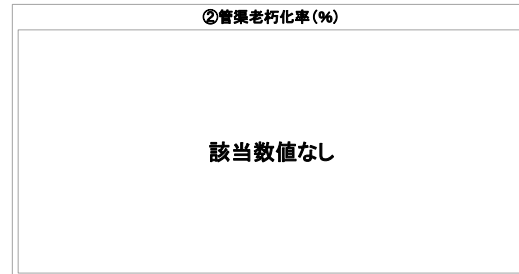


「使用料対象の捕捉」

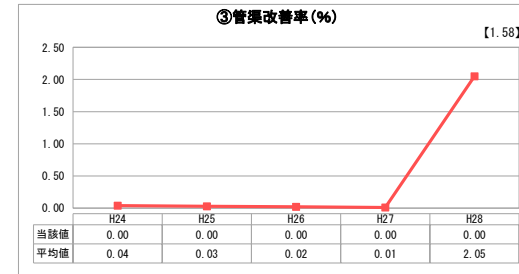
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析概

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率(①)は昨年より改善しているものの62.12%と、100%を下回っており、地方債償還金が大きな負担となっている。

企業債残高対事業規模比率(④)は、農業集落排水事業の整備が完了しているため、現在は新たな投資がなく債務残高は減少傾向となっている。

経費回収率(⑤)は、例年と比較高い数値となっているが100%を下回っている。今後も、費用の削減・経営の改善が必要である。

汚水処理原価(⑥)は、昨年より減少しており、類似団体と比較すると低い値であり、改善している。

施設利用率(⑦)は、横ばいで類似団体と比較低い値である。水洗化率(⑧)は、平均以下ではあるが昨年よりも増加しているため、今後も接続率の向上に向けた取り組みに力を入れ、施設利用率を上げるようにしたい。

2. 老朽化の状況について

平成9年に供用を開始しており、処理区によっては平成28年度で供用開始から19年となる。管渠については、耐用年数に達しておらず、緊急的に更新する必要性が無いため、管渠改善率は低い数字で推移している。今後は耐用年数を考慮しながら、計画的な長寿命化事業を行なう必要がある。

全体総括

汚水処理費用に対して料金収入が少なく、経営は厳しい状況である。処理場建設後15年以上経過しており、今後の修繕費用も多くなると思われるので、適正な維持管理を行い、経営指標の推移に着目しながら健全な計画を目指していきたい。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。